言葉の力～心の強かさを磨くもの～

ダイヤモンドとガラスの違い

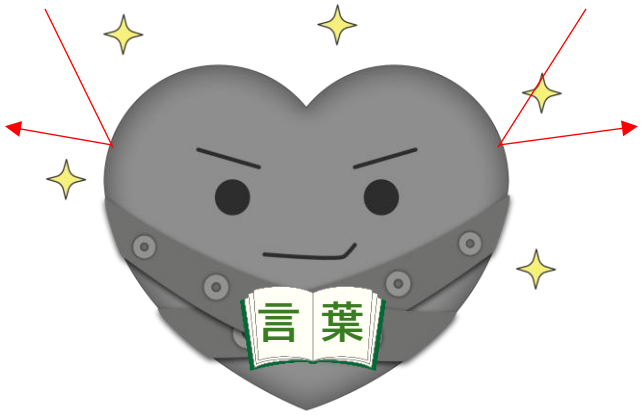
●以前コラムの中でダイヤモンドとガラスの違いの話をしたことがあります。ふかさわミル保育園にお通いの子どもたちは皆、素質的にも環境的にも一人残らずダイヤの原石だと確信しながら日々お子さまをお預かりしています。それゆえ私たちは、そのダイヤの原石の取扱いに熟練することはもとより、私たち自身の人間性もダイヤに近づけるよう磨いていかなければなりません。なぜなら、子どもたちの１日のうちで最も長時間かつ身近にいる保育者が、日々どんな思いでどのような態度で接するかが、子どもたちの将来に大きな影響を与えかねないと考えているからです。

●ダイヤもガラスも平常時にはその輝きに差は見えません。しかし、有事の際、その差は決定的に現れます。例えばナイフのような鋭利な刃物で両者を切りつけた時、ガラスはたちまち傷だらけになりますが、硬いダイヤには傷がつかずその輝きを保ち続けます。

●こうした差について、人間社会でも似たような場面を目にすることがあります。例えば普段は人当たりがよく明るく強気に見えるような人物が、想定外の事態に我を忘れ、立ち直れなかったり、ぞっとするような冷酷さを見せたりする、そんなシーンです。

●ダイヤモンドが持つ強さ―。これを人間に置き換えると「心の強(したた)かさ」と言えるのではないでしょうか。その意味で、前述のダイヤの原石の磨き方をここでは「**心の強かさの磨き方**」と定義してみます。





心の強かさを錬磨するもの

●では、人生において心の強かさを錬磨するものは何でしょう。過酷な環境、ハイレベルな挑戦、それらがもたらす重圧等―。しかし、それだけでは心は強くも弱くもなり得ます。肝心なのは、そういった逆境や重圧に向き合う際の心構えを支え、良い方向へ導いてくれる「**言葉**」ではないかと私は思います。それも、短く端的に真理を穿(うが)つ片言隻句(へんげんせっく)ほど、押しつぶされそうな心に深くすっと入り込んできます。

「心構えというのは、どんなに磨いても毎日ゼロになる能力である。毎朝歯を磨くように、心構えも毎朝磨き直さなければならない。」　(社会教育家　田中真澄)

「人の心は毎日目にするもの、耳にするものに似てくる」(イエローハット創業者　鍵山秀三郎)

●また、人が毎日目にするもの、耳にするものの中で最も影響を受けるものと言えば、「言葉」に他ならないでしょう。日頃からどんな言葉に触れ続けているか―。これこそが、心をガラスにするかダイヤモンドにまで高められるかを分かつ分岐点ではないでしょうか。

「言葉の力」は古今東西不変の真理

「しきしまの大和の国は言霊のさきはう国ぞ」
（柿本人麻呂　万葉集）
「初めに言葉ありき。言葉は神なりき。」
（新約聖書　ヨハネの福音書）

●思えば、古来日本人は「言霊（ことだま）」という言葉を用いて言葉の実現力を信じてきました。それは西洋でも同様です。新約聖書の中で「言葉は神なりき」と著し、言葉を神聖視してきました。そうなると私たちは人類として、ことさら保育者として、言葉が持つ力を疎かにする訳にはいきません。

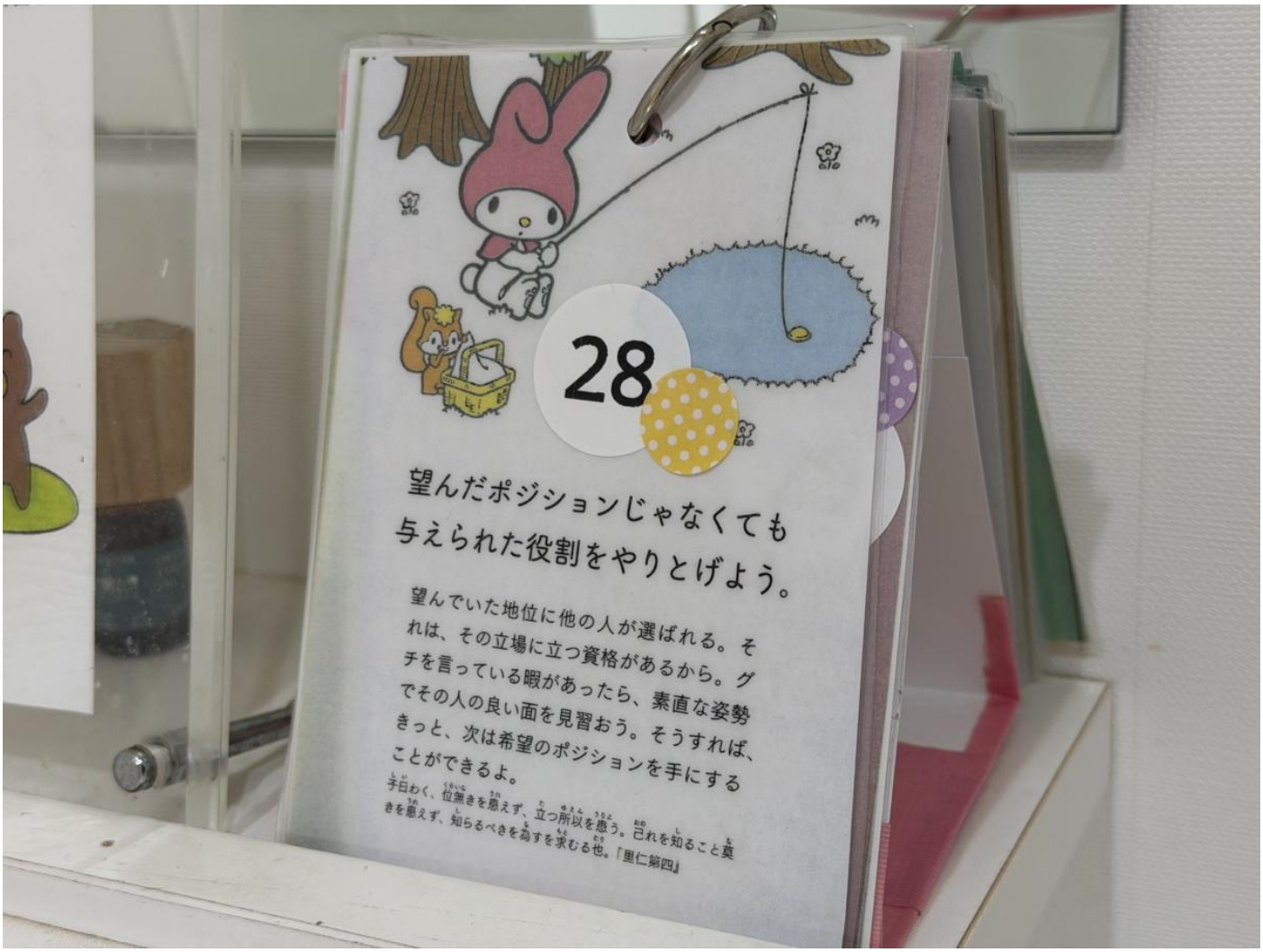
手作り日めくりカレンダー

●先日のことです。事務所にいた数人の職員と「言葉の力」について会話した数日後―。工藤主任の事務机に「論語」という文字を発見した私。可愛らしい装丁の書籍には「マイメロディの『論語』」と書かれています。



●古典好きの私としては当然、見逃せません。
「面白そうだね、この本。どうしたの？」
興味津々、尋ねました。すると、
「この前に『言葉の力』の話になったじゃないですか。それでという訳じゃないですが、私も時々この本を読み返そうかなと思って…」と。
なんでも書き下し文ではなかなか頭に入って来づらい論語の言葉を、マイメロディが現代風にカジュアルに言い換えて教え諭してくれるのだそうです。
そこで私は次のような提案をしました。

「それはいいね。でも、せっかくなら、その本の中から特に工藤先生の心に響いた言葉を厳選して、日めくりカレンダーにして職員と共有してみない？」
するとさすがは保育園きってのスピードスター。すぐに写真のようなかわいらしいマイメロディの論語日めくりカレンダーが完成しました。



●老眼になりかけの私には読みづらいのですが、下部に論語の原文、上部には意訳が書かれています。この日めくりカレンダーは職員のトイレに飾られています。

●こうした工藤先生の素晴らしい取り組みに触発され、私も職員の日々の心磨きに役立つ言葉をシェアしてみたいと思いました。そこで参考として自宅の本棚

から手に取ったのが、鍵山秀三郎著「人生をひらく100の金言」です。これまで私のコラムの中で何度も登場している鍵山秀三郎さんですが、謙虚で他人に優しく自分に厳しいお人柄が凝縮された言葉の数々を改めて読み返し、鍵山さんの教えの偉大さを痛感しました。

●この中から私が個人的に感銘を受けた、または職員たちと共有したい言葉を選び 31 日分の日めくりカレンダーを作成しました。ここでその内容の一部を保護者の皆さまにご紹介したいと思います。

気づける人になる

16
感謝②

小さなことに感動できる人、
小さなことを喜べる人、
感謝できる人ほど幸せだと思います。
感謝こそ、人生を潤す花だと思うのです。

28
人間の性

人間というものは、人から愛されたり、
守られたりしていることに対しては
極めて鈍感です。
逆に、自分の意に
沿わないことに対しては
とても敏感にできている。

●人間は、脳の仕組みがそうなっているのではないかと思うほど、既に与えられているものに対する感謝の気持ちが徐々に薄れていく生き物です。朝普通に目覚められること、呼吸ができること。本当はそれ自体がものすごく有難いことなのに、人はそんなことに全く気も留めず、降り続く雨や仕事上の懸念、上手くいかない人間関係にばかり意識を向けがちです。感謝すべきことはそこら中に転がっているはずなのに―。小さな幸せに気づける人になるにはどうしたらよいのでしょう。

18 自分の仕事

神戸女学院大学名誉教授の内田樹という先生が書いた本の中にこういう言葉が出てきます。

「私の仕事ではない。あなたの仕事でもない。誰の仕事でもない仕事が放置されている組織は、そこから腐敗する」

会社の中にはいろんな仕事があるわけですけど、細分化していくと必ず間が空くんですね。この間を補い合って、微妙に重なり合っている企業は発展していきます。

22 気づく人になる

気づく人になるもう一つの条件は、「人を喜ばす」ことです。

微差、僅差の追求よりもこちらのほうが大きな要素だと思いますが、たえず人を喜ばせる気持ちで物事をやる、人生を送る、毎日を送るということです。これを続けて一年たてば、本当に人が変わるぐらい気づく人間に変わってしまいます。

●気づける人になる条件として、「人を喜ばすこと」を鍵山さんは掲げています。何をすれば目の前の人が喜んでくれるだろうかと考えると、その人の置かれている状況の深い所に自ずと心が向かいます。喜び絶頂の中にいる人と、落ち込んでいる人とでは、喜ばせ方のアプローチは全然違います。つまり「人を喜ばせる」とは結局、相手への洞察であり、思いやりなのです。

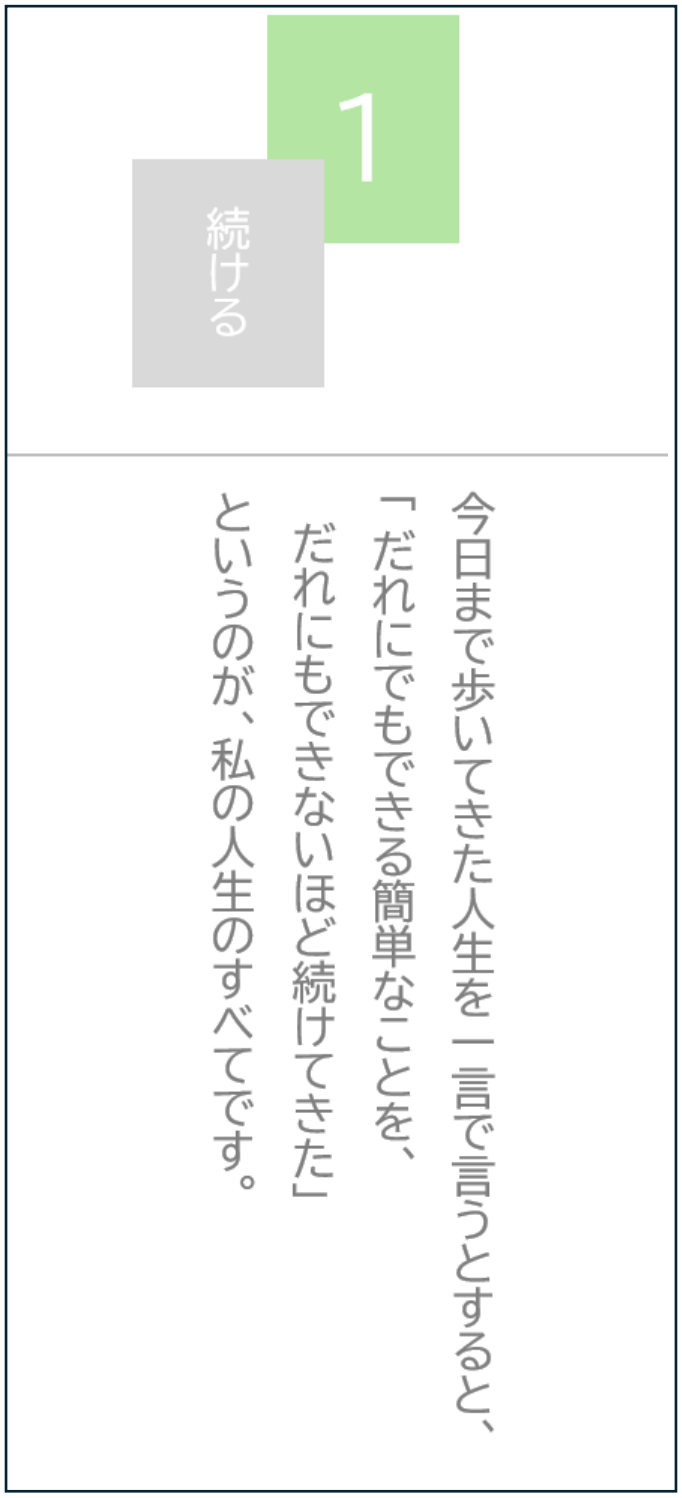
●「誰の仕事でもない仕事」はどんな職場でも必ず発生します。例えば廊下に置き忘れた絵本があったとします。誰がこれを持ってきたのか。なぜ置き忘れたのか。私が今これを片付けるべきか…。

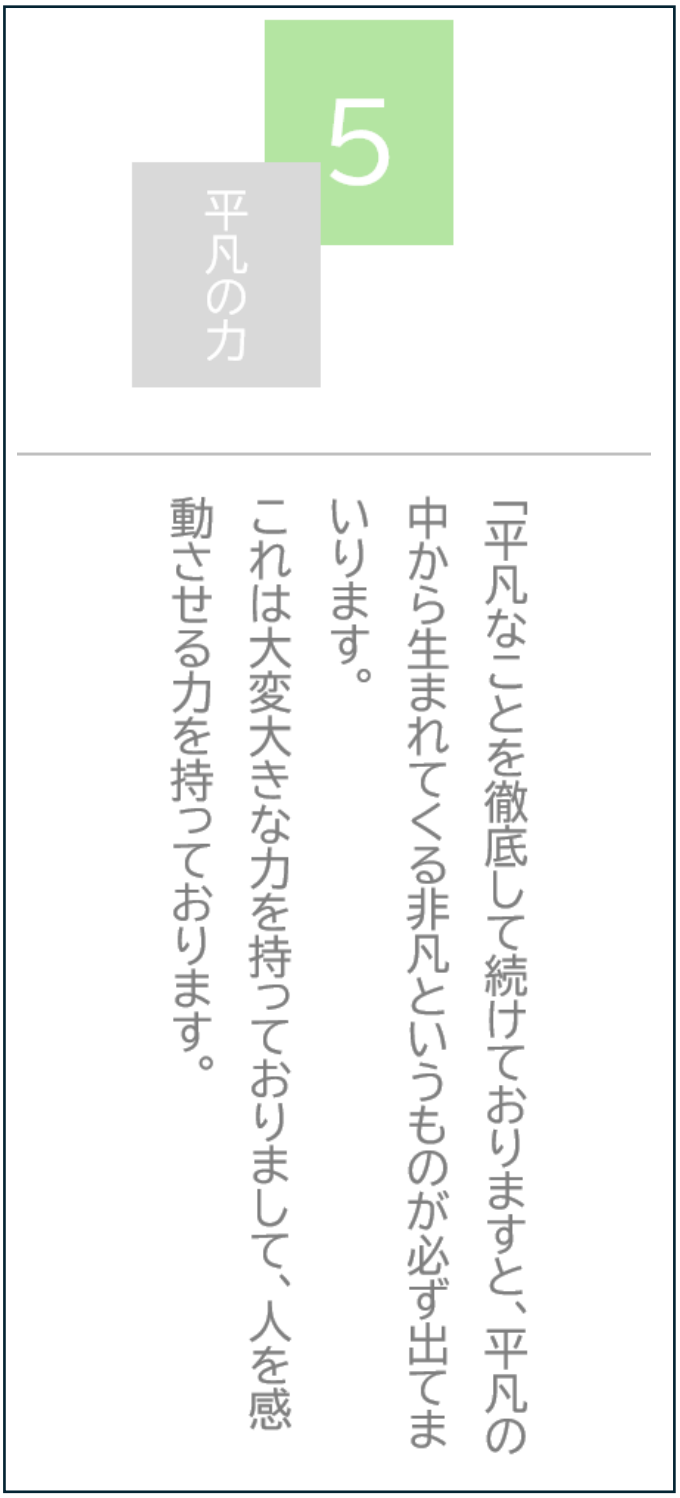


●「人を喜ばせること」が行動基準の人は、そんなことは考えもせず躊躇なくその絵本を手にとり、元の場所に戻すと思います。

●2024 年にエランドール賞で特別賞を受賞したドラマ「ブラッシュアップライフ」をご覧になった方も多いかと思いますが、こういう天に徳を積むような行動を楽しみながら嫌味なくできる人間に、私を含めた全職員が近づけるかが、ダイヤモンドの保育園になれるかどうかの試金石だと思っています。

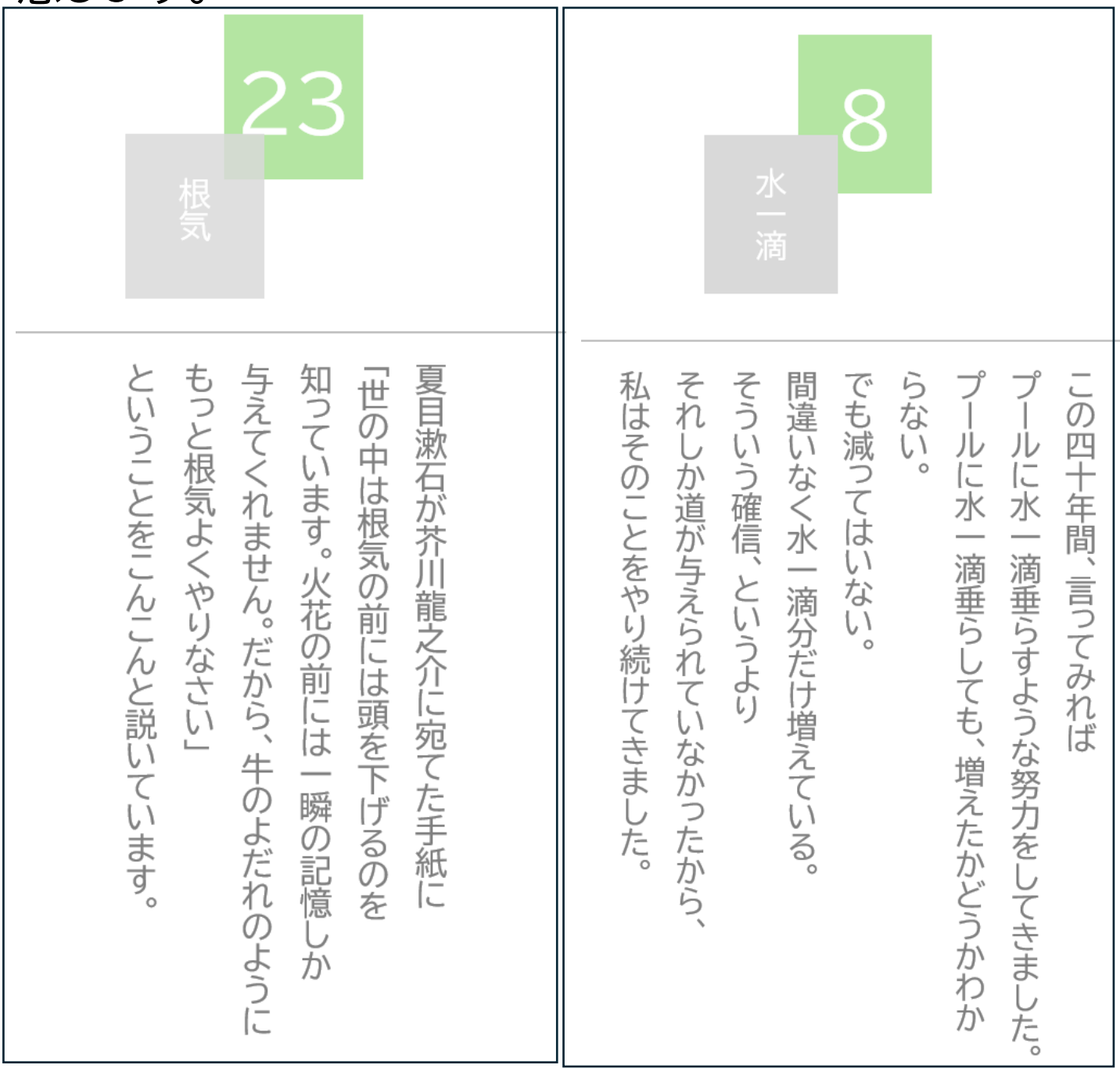
凡事徹底・積小為大





●鍵山さんのこうした言葉に触れると私が必ず思い出すのが、江戸時代の農業指導者である二宮尊徳が残した「積小為大（せきしょういだい）」という言葉です。「**小さな努力・小さなことの積み重ねが、やがて大きな成果や発展に繋がる**」ことを表した言葉ですが、鍵山さん

の凡事徹底の生き方は、まるで二宮尊徳の生まれ変わりではないかと思うほどです。「**誰にでもできる簡単なことを、誰にもできないほど続けてきた**」それが「**私の人生のすべて**」と言い切るところに、鍵山さんの迫力を感じます。



●世の中にある平凡なことはほぼ全てと言っていいほど、効果をすぐに感じられない退屈な作業ばかりです。それゆえに誰もが続けることをやめていく中、倦まず弛

まずやり続けるためには、相当な根気と覚悟が必要です。続けることを諦めそうになった自分の心をいかにして鼓舞するか。鍵山さんの言葉は、「プールの水一滴」や「牛のよだれのような根気」というユニークな例えを用いて、折れそうになった心を支えてくれます。

十年偉大なり　二十年畏るべし　三十年にして歴史なる

6 足元の実践

世の中を変えようというんですから、
目標は大きいですよ。
だけどやることは、足元の小さなことから始める。
これしかないと思うんです。

7 継続の力

出典は分かりませんが、古人の素晴らしい名言をご紹介します。
「十年偉大なり。二十年畏るべし。
三十年にして歴史なる」
どんな些細な小さなことでも、十年心を込めて続けるということは“偉大”なことです。それにもう十年加えて、二十年それを続けたとしたら、それは“おそるべき力になる”というくらいに意義があります。そして、さらにもう十年続けて三十年に至れば“歴史ともいえる力になる”のです。

●保育の仕事、幼児教育の仕事は、20 年後、30 年後の未来を変える立場に立つ子どもたちの人格的な背骨・土台形成に関わる偉大な仕事です。とはいえ、日々行う仕事内容と言えば、本当に途方もないくらい些細な、しかし大事な子どもとのやりとりの積み重ねです。

●目標は大きく、やることは足元の小さなことから。しかしその小さな微差の積み重ねが大差となり、やがて絶対差となる。そう鍵山さんはおっしゃいます。

　どんな些細な小さなことでも心を込め、それを 10 年続ければ偉大となり 20 年で畏るべし、30 年続けばもはや歴史ともいえる力になる―。

●ふかさわミル保育園は今年 10 周年を迎えました。ここまで続けられたのも、皆さまの支えがあってのことです。今後 20 年、30 年と時を重ね、ミル保育園を巣立った子どもたちが世界各地で感謝され、社会にとって必要不可欠な存在となり、自身の幼少期を振り返った時誇りに思えるような、そんな保育園の歴史を刻めるよう日々心の強かさを磨いていきたいと考えております。

園長　橋本　英明

